

巻末資料3

ファシリテーションとは



CDRファシリテーター講習会

CDRにおける ファシリテーション

天使病院 小児科
佐々木 理



まずファシリテーションとは？

ファシリテーション

- さまざまな価値観を持つ人を一つの目標達成へ導くこと
- 集団による課題解決、アイデア創造、教育、学習等、あらゆる**知識創造活動を支援し促進していく働き**
- その役割を担う人がファシリテーター（facilitator）
会議で言えば進行役
- ファシリテーションの中に、アイスブレイキング、成人教育、心理的安全性の保証、参加者の心のケアが含まれている



会議にファシリテーションが必要な理由

会議のブリーフィング

会議中のファシリテーション

クロージングとデブリーフィング

3/27

会議の種類

名前を正しく使われていない会議もある



個別検証が
目指す会議

報告や連絡をする会議（部会・朝礼）

会議参加者同士の**情報共有**が主体

スケジュールを決める会議（営業進捗会議・予算進捗会議）

事業報告や案件の進捗報告が主体、参加者同士の情報共有や組織としての意思決定

アイデア出しの会議（戦略会議・企画会議）

ファシリテーターが必須な会議

問題を特定し、原因を洗い出し、解決策を検討し、活動計画に落とし込む

意思決定をする会議（取締役会・経営審議会）

リーダーが、多くの**意見聴取**を行い、**最終的な意思決定**がおこなわれる

教育をする会議（薬剤説明会、電カル操作説明会）

制度や仕組み等が変更された際に行う。議論ではなく、**説明と質疑応答**。

こんな会議は嫌だ

- 会議という名の **演説会**
- 解決したい問題があるのに **問題が扱われない** 会議
- “**意思決定を先送りにする**” という意思決定がなされる会議
- **約束が全く尊重されない** 会議
- 開始時間も終了時間も慢性的に **定刻より遅い** 会議
- 相手を詰問する **吊し上げ** の会議



“どうせ何を言っても変わらない”という前提で参加させられている会議
“自分がいてもいなくても変わらない”という解釈が生まれる会議

5/27

会議にファシリテーションが必要な理由

会議のブリーフィング

会議中のファシリテーション

クロージングとデブリーフィング

7/27

CDRのファシリテーションは準備が8割

＜症例を分解する＞

- 症例を分解してテーマを探す
- MECE＝モレなくダブリなく、分類する
- 時間で分解する（発症前、発症後～死亡、死後、環境、CDRシステム）
- キーワードで分解する（睡眠環境、タバコ、養育不全 etc.）

＜検証の参加者を把握する＞

- 誰を呼ぶのか。誰が来るのか。

＜可能なら参加者に事前相談＞

- テーマについてのコメントを依頼する



8/27

会議にファシリテーションが必要な理由

会議のブリーフィング

会議中のファシリテーション

クロージングとデブリーフィング

9/27

“最初の5分”でその日の検証の流れが決まる

1. 開始前に参加者と挨拶、顔合わせしておく
(初めての検証参加で慣れない人もいる)
2. 参加者の自己紹介(所属、名前、一言)
3. グラウンドルール、検証ルールの確認
4. 検証の目的(検証の最終目標)を確認
5. 「死因分類などは事前にPDFで配布していますが、各自で見に行くのがめんどいので、適宜スライドで表示します。」
6. 「1症例について、一人一つコメントをお願いしますね。」
7. 黙祷
8. 開始「では、はじめましょう」

心理的安全性の保証

議論のポイントを明確にする

初めての人を置いてきぼりにさせない

演説型の参加者への牽制
消極的な参加者への牽制
立場の弱い参加者への配慮



10/27

・CDRにおける検証のグラウンド・ルール

- 子どもの予防可能死を減らすことが目的である
- 特定の個人や関係機関の責任を問う場ではない
- 検証委員のお互いの立場を尊重し前向きな検討を行う
- 子どもの死を予防するための対策の提言を行う
- 参加者は「安全」であり、自由に発言できる
- 参加者には守秘義務が課せられている

アイデア出しの会議のルール

Do!

- 意見は簡潔に述べる
- 人の話は最後まで聞く
- 積極的に発言する
- 時間厳守
- うなずく、反応する
- 集中する
- お互いを尊重する

Don't!

- 人の意見を否定する
- 長々としゃべる
- 個人攻撃
- 内職
- 無反応
- 発言しない
- 話を脱線させる

12/27

“問題”＝“あるべき姿”－“現状”

“予防策”＝問題を解決するもの

“問題”を知るためには、
“現状”と“目標とすべき姿”を 具体的に描出する

“問題”を理解してから“予防策”を考える

13/27



注意！

混ぜるな危険！

- 事実確認→問題点の抽出→予防策の検討
- ステップごとに絞った議論をするべき
- ステップを混ぜて議論すると、話がぶれてしまう



14/27

参加者から意見を引き出す方法

心理的安全性を担保

- ✓ 参加者は、自由な主張が許される場なのかどうか不安

“魅力的なクイズ”に変換

- ✓ 「意見を出させる」よりも「意見を言いたくなる」や「答えたくなる」へ

今何を話し合っているのかを参加者全員が把握

- ✓ わからないと話に入れない

15/27

心理的安全性を担保する方法

- 意識的に笑顔で居続ける (ファシリは嘘でも笑顔)
- 腕組みをしない (腕組み＝ガードの現れ)
- ワントーン高めの声 (ドスを利かせない)
- 自分と異なる意見でも否定しない

「そういう意見もありますよね」「面白い意見ですね」

- 発言に必ずリアクションする

相手の発言をまとめつつ、承認欲求を満たす側に回る

- グラウンド・ルール徹底



16/27

今、何を話し合っているのか？

あの人の言っていることがわからない

➡ 専門的な内容には注釈をいれる

今の議論の中心が見えない

➡ “これまでの議論”と“今の議論”を、見える化する

おすすめは、ファシリテーショングラフィック！



10/27

ファシリテーショングラフィックとは？

● 「議論を描く」

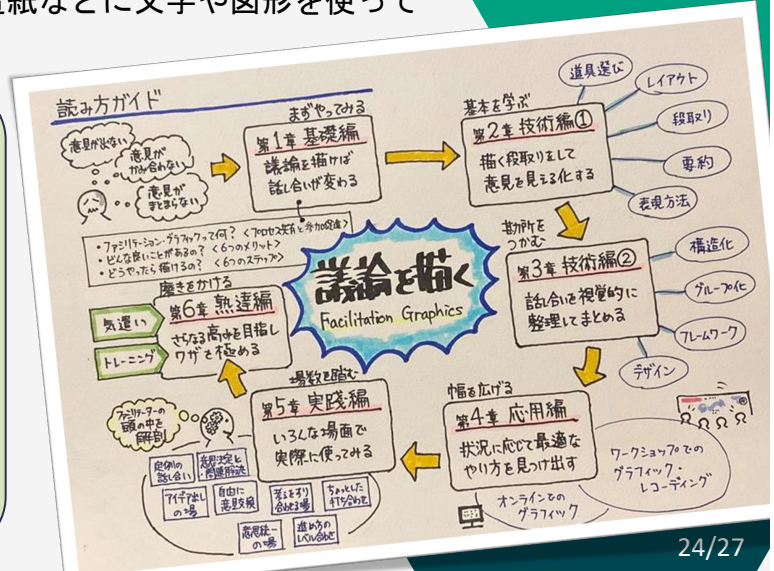
議論の内容を、ホワイトボードや模造紙などに文字や図形を使って
わかりやすく書き留める

- プロセスの共有

- 議論のポイントを分かりやすくする
- ポイントに意識を集中させる
- 共通の記録として残す

● 参加の促進

- 発言を定着させて安心感を与える
- 発言を発言者から切り離す
- 議論に広がりを与える



24/27

まとめかた
全会一致 × 司会に一任

- ・検証前に、まとめのルールを参加者に伝え合意を得ておく

- ✓ 個別検証のゴールは「予防策をたくさん出すこと」
- ✓ 検証は時間内に終わる
- ✓ 時間内は可能な限り参加者の意見を聞く
- ✓ でてきた予防策をファシリテーターがあとでまとめる

参加者の納得度の高さ

自分の意見が入っている結果 > 正しい結果



会議にファシリテーションが必要な理由

会議のブリーフィング

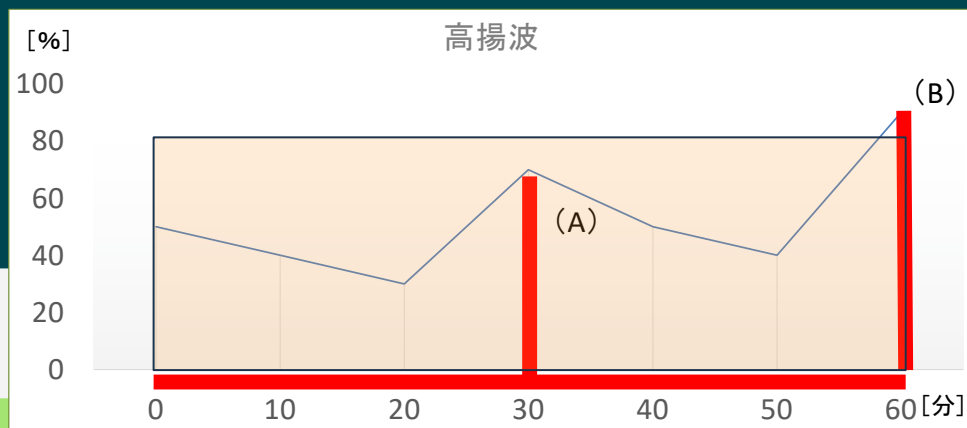
会議中のファシリテーション

クロージングとデブリーフィング

22/27

体感値としての会議の満足度面積 =

「最頂点と最後の高揚波の平均{(A) + (B)} ÷ 2」 × 「会議時間」



23/27

クロージングでデブリーフィング ～ドアノブコメントを引き出す～

- ・参加者全員への質問
 - 検証の感想
 - 検証結果の感想
 - 自分自身の成長につながる発見
(気づいたこと、わかったこと)
 - 次までにやってみたいこと



24/27

自分のクロージングスピーチ

<ポイントは感謝と祝福と承認>

- ・このメンバーで検討ができることが誇りに思える検証だった

<メッセージの伝え方>

- Youメッセージ (皆さんは素晴らしい、皆さんは頑張っている)
- Weメッセージ (わたしたちは、あなたを誇りに思う)
- **Iメッセージ** (状況とセットで使う (SBI) と尚良し)

✓ 私は、皆さんの この時の あのふるまいをすごいと感じた

✓ 発言の内容より **関わり方、会議に臨む姿勢そのものを褒める**

25/27

地域CDRモデル事業の長とデブリーフィング

長＝ 行政の主幹？ 教授？ 医師会理事？

<デブリーフィング内容>

- 検証結果のおおまかな確認
- CDR事業の運営に関する内容の確認
- 参加者の適性の確認
- 次回の予定の確認



26/27

Take home message

CDRのファシリテーションとは、
様々な価値観を持つ多職種をまとめ上げて、
予防策立案へ導くこと（自分で作るわけではない）

CDRのファシリテーションでは
ブリーフィング、会議の進行、デブリーフィングを通じて

- ✓ 立場の異なる参加者から積極的な発言を引き出すこと
- ✓ 意見をまとめ、予防策立案へ導くこと
- ✓ CDRを継続的に運営すること

が求められている

27/27

参考資料



かんき出版 2020/10/7発売 1760円



日本実業出版社 2022/7/1発売 2200円